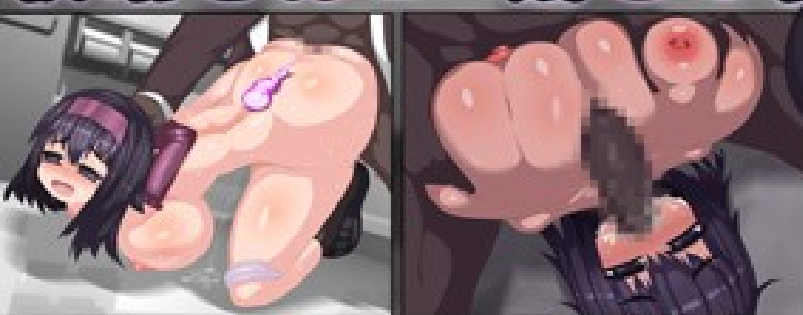




**イジメたくなる
根暗さん2×歳との性活**



「やめて」と言い返せない根暗な豚女を捕まえて
彼女に構わず種付けセックスする話

「ず、すいません」

「ああゝ・・・どうしてくれんの」

どうやら花壇に水をやっていてひっかけたらしい
これから出かけようとしていたのに



「あ、あの・・・」

おどおどしすぎだろ、泣きたいのはこっちだ
そういえばしゃべるのは初めてだったな

近所のおしやべりおばさんが言ってたっけ
遠くから引っ越してきて知り合いがおらず
在宅で仕事してるから余計に外に出ないとか
今年で2×歳らしい



だいぶ前からちよくちよく見るけど話は本当みたいだ
確かに男と一緒に居るのも見た事無い
何か重たそうだけど何かもったいねえな
。。。



「あれ、叫ばないの？こんな事されても黙ってるとか
ちゃんと自分が悪いと思ってるんだな」

『。。。』



「家の中入っていい？」

『え。。。』

「いやだってズボン濡れちゃったでしょ？
乾かしてもらわないと」

「いいよね？」

『。。。はい』



「あの・・・脱ぎました・・・」

「おお、やっぱでかいね」

「これで許してもらえるのでしょうか・・・」

「は？ここからでしょ」



「!」

「そのまま動かないでね」

742...



(ああ男の人のおちんちんが胸の中に……)





(び・・・びっくりした・・・)

「じゃあこのまま本番もしちゃおうね、ほら横になって」
「あっ、あの、それは・・・あの・・・はい」



(このまま流されちゃつたら・・・ダメだよね・・・)
「あ、あの・・・」



「ちゃんとゴムつけるから、これでいいでしょ」

「あ・・・はい・・・」



「今からこれをぶちこむからな」

(ひっ・さっきよりおつきい・)

てん・

てん・

「さっきの反応見てて思ったんだけど、処女なの？」

「……」

カッ~~~~~

っ



「ああいよいよ、俺別に気にしないし」



「ひうつ・・・!」
「力抜かないと痛いぞ? ほらゆっくり呼吸して」

「ゆ、ゆっくり……」

「は？濡らしたお詫びにやってるんでしょ？我慢してよ」

「うう……わかりました……」

もって

ズン

ズン

ズン

ズン

お

（はやくおわって……）





「ふう、気持ちよかった」

(はあ・・・はあ・・・終わった・・・？)

はあ・・・

はあ・・・

んんん

ん

「何へばってんの、こんなんでもまだ足りるわけないでしょ
尻こっち向けてよ」

「は、はい・・・」



はあ。。。。

はあ。。。。

あれから何度もやめたと
言おうとした

しかし男は満足するまで私を犯した
今まで一度も男性と付き合った事も
抱かれた事もなかったのに

今日あったばかりの男に
こんな好き放題に。。。

ドロオ。。。。

(でも。。。。やっと終わった。。。。。。。。。。)



「君の事気に入っちゃったわ
明日も来ていいよね」

「来るからね」

「。。。はい」



初めてのデート
知り合って数日の男と行くとは思わなかった。。。
食事は美味しかったけど私に構う事なく
男にトイレに連れ込まれた

「ごめんねー急にムラムラしちゃってさ、ここで抜いてくれない？」

「はい。。。」

「あいかわらずデカ乳だね、んじゃあ挟んで」

「はい。。。」



(うう大きくて堅い……こんなのがこの間私の中にはいつてたんだ……)



(ヌルヌルしてきたけど……気持ち良いのかな……わかんないよ……)



「ほら汚れちゃったから舐め取って」

「はい……。んむう……。ちゅっ……。」

チュッ
チュッ
……

チュッ

「綺麗にしたら今度はパンツ脱いで尻こっちに向けてね
モタモタしてると人きちゃうよ早く」

「はい……。」



「また私流されてる……」
「あ、あの……」

「もう我慢できないから後にして」
「はい……」



「中に挿ってる俺のちんぽの形分かる？」

「は、はい……。 (意識しちゃう……。) 」

グズグズ……

グズグズ……

グズグズ……



「あぁっ。。。。うぐっ！。。。。」
「あれ？もしかしてここ気持ち良いの？」



「そこは。。。。感じすぎるので。。。。あぐっ。。。。」

「よっぽど良いの？我慢しないでさっさとイっちゃまえ！」



「うううううう・・・乱暴に・・・やめっ・・・っ」



「あらら、痙攣するほど良かったの？
だらしなく漏らしちゃって」



私はいままでこの男の玩具にされるのでしょうか……

数日後、あの男と温泉にきている
私はまだ何も言っていないのに
付き合ってる事になっているようだ



私が何も言えないのが悪いんだけど・・・ちゃんと言わないと・・・

「おー結構豪華なところじゃん」

『！』

♡
♡
♡

『あれ。。。な、なんで。。。』

「何ってここ混浴だよ？それに俺達しかいねえみたい」

『そうなんですか。。。』



「まあまあ安心してよ変な事しないからさ」
「は。。。はい。。。」



「すごく近い。。。」

「肩こってるな、リラックスしなよ」

「ひあっ！」

グ
ニ
ッ

ム
ニ
ッ

ッ

ッ

「あ、あの……」

「こっちもマッサージしてやるよ、嬉しいでしょ？」

「……はい」



「んっ。。。ふう。。。」「デカイのに感じやすいんだな」



「ん？乳だけでいったのかよ」



(乱暴にされたのに・・・おっぱいだけでイっちゃった・・・)



はぁー・・・
はぁー・・・
ポッポッ

「俺もムラムラしてきちゃった、ちよつとこっち来てよ」
「ふぁい・・・?」

「誰か・・・来ちゃうかもしれないので・・・あの・・・」



「すぐ終わらせれば平気だって」

「・・・はい」



「あ、あの……ゴムは……」

グチャッ

んー

「大丈夫だって、ちゃんと外に出すから」

「……はい」







「……あの……中に……」
「ああごめんちよっと出ちゃった」



「まあ終わった後すぐかき出せば大丈夫っしょ
それより1回出しちゃったし最後までやっていいよね」



「ふう、ひとまずこんなもんでいいか
じゃあ先に部屋で待ってるから身体綺麗にしたら早くきて」



ゴッ

ドロ

ヒッ

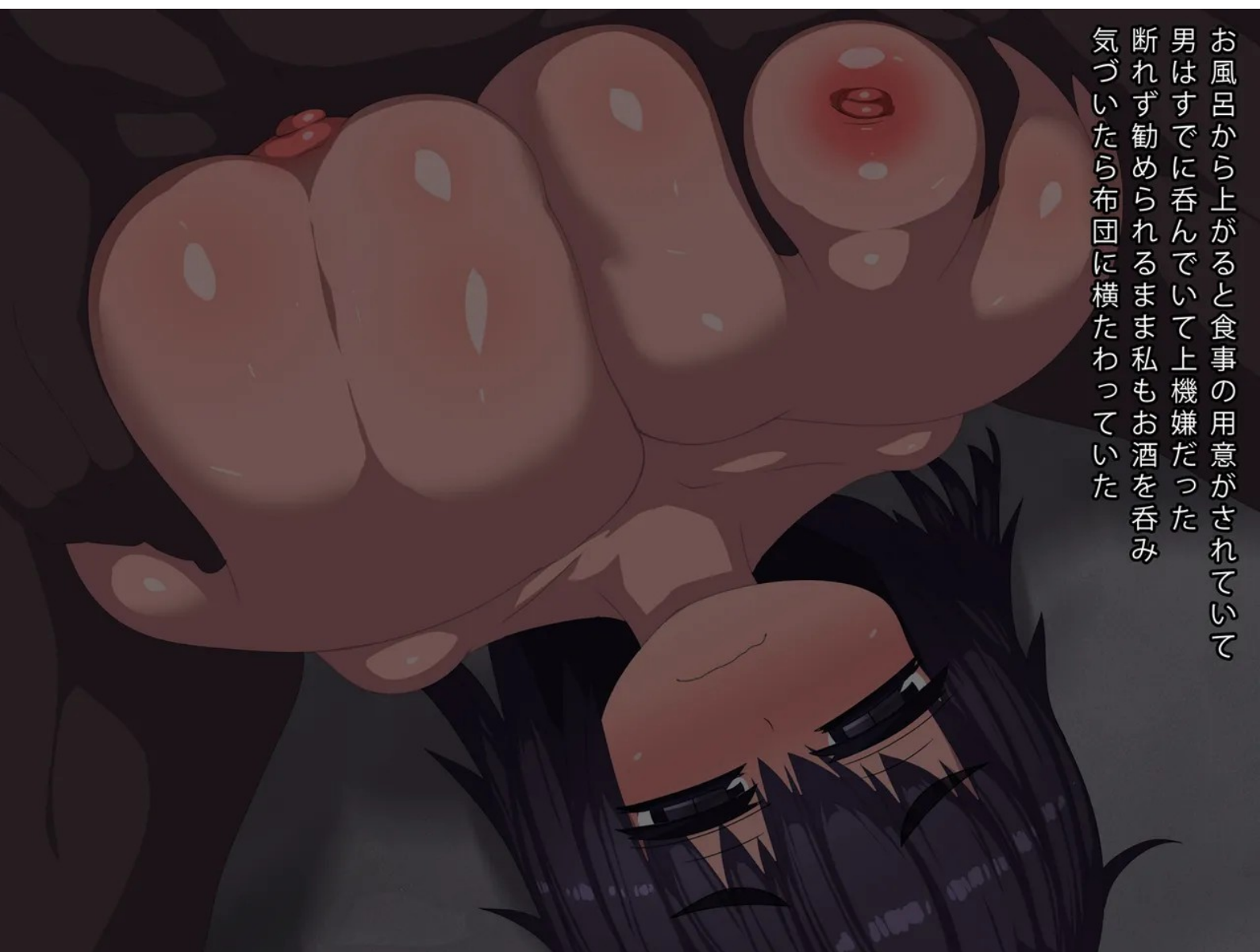
あー

うわ

あー

「...あー」

お風呂から上がると食事の用意がされていて
男はすでに呑んでいて上機嫌だった
断れず勧められるまま私もお酒を呑み
気づいたら布団に横たわっていた



「お？起きたか、酒呑んで体温上がってるから乳の具合も良いな」
「ふえ・・・あれ？・・・」



「うらからうらから、そのまま寝て」



ダッ

ダッ

グッ

グッ



「ふう出た出た、綺麗にして」
「えっ……はい……」



（からだがおもたい……この人とどんな関係なんだっけ……）

「良い光景だ、やっぱ肉つきが良いな」
(あれが私の中に……)

「ん？俺のちんぽ見て興奮したの？マン汁垂れてるけど」
「興奮なんて……してないです……」



「ひゃっ」
「叩く度にマン汁垂らして、こういう好きなんだな」
「ひぎっ」



「身体と同じく膣肉も分厚くてネットリ絡み付いてくる」



「でもまだまだ窮屈だなあ、それとも叩かれたくて抵抗してるのか」

「だいぶ叩いたけど、やっと緩んできたか」
「ひうつ……ふう……」

「俺の生ちんぽが子宮口届いてるの分かるか
これから子宮がパンパンになるまでドロッドロの精液吐き出すからな」

「はい……」
「はい……」

「妊娠させられるかもとか考えないの？」

「はい……」

「わかってるのかなあ、まあいいか」



「すごい声出してんな、無理やりされのやつぱ好きなんじゃん」

「そろそろ出すぞ、孕めっ！」





「つくう、すげえ出た
がんばった俺におれとか無いの？」

「あっ……ありがとうございます……」

「おし、じゃあもっと出してやるからこっち向いてよ」

「はい……」



「うわ、さっき出したのが溢れてくる。こりゃ出しすぎだな」
(は、恥ずかしい)

ドロ〜

んっ

「じゃあ一気に串刺しにするけど気絶しないようにね」
「あの・・・え？くしざし？・・・」





「すげえ声出して痙攣しちゃってるけどそんな良かったの？」



ズル
ズル

ズル
ズル

んん

ズル
ズル

んん
んん

「聞こえてねえな」



「んじゃあ1発」

「いぎいー」







「こんだけ出しちまったらさすがにデキちまうかな、どうしよ
。。まあもうちよつとやってから考えるか」

あの旅行以降もゴムは一切つけてもらえず
毎日会って毎日犯された結果



「ついにデキちゃったかー、でも俺達まだ付き合っていないよね」

「……はい」

「何かあるなら言いなよ」

「……」

「ああそういう顔されるからやりたくなるんだよなあ
家の中入っていいよね？」

『はい。。。』



今日もこの人に好き放題に犯されてしまう
なにも言い返せない私に構わず無理やり。。。。

おしまい























































































































